

疫学情報 2017年10月11日分

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000177816.pdf>

各都道府県衛生主管部（局）長 殿

季節性インフルエンザワクチンの供給について

厚生労働省医政局経済課長

厚生労働省健康局健康課長

厚生労働省健康局結核感染症課長

季節性インフルエンザワクチン（以下「ワクチン」という。）について、貴職におかれ  
ては、下記の事項について、予防接種法（昭和23年法律第68号）上の実施主体である  
市区町村や医療機関等の貴管内関係者へ周知するとともに、ワクチンの円滑な流通につい  
て関係者との連携に努めていただくようお願いする。

1. ワクチンの製造予定量について

今冬のインフルエンザシーズンのワクチンの製造予定量は、平成29年7月31日時点に  
おける見込みで、2,527.5万本（1mLを1本に換算）である（別添1参照）。

2. 今冬のワクチンに係る安定供給対策について

今冬のインフルエンザシーズンについては、現時点において、1に示した製造予定量や昨  
シーズンの使用量を勘案すると、ワクチンを効率的に活用することが例年以上に重要な状  
況である。このため、今シーズンのワクチンについては、

① 以下の（2）に提示したとおり、13歳以上の者が接種を受ける場合には医師が特に必  
要と認める場合を除き「1回注射」であることを周知徹底すること（別添2参照）、

② 昨シーズン以上にワクチンの効率的な活用を徹底することにより、昨シーズンと同等  
程度の接種者数を確保できる見込みであることから、貴管下関係者に対して以下の各事項  
について周知し、かつ協力を要請いただくとともに、各都道府県においても、必要な準備  
方よろしくお願い致したい。

なお、ワクチンが市場に供給される予定時期（製造販売業者からの出荷予定時期）は別添  
3のとおりとなっており、順次供給される見込みであることを申し添える。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000179184.html>

平成29年9月29日

【照会先】健康局 結核感染症課

薬剤耐性(AMR)対策の啓発に『機動戦士ガンダム』を起用「AMR対策 いきまあーす！」

厚生労働省は、薬剤耐性（AMR: Antimicrobial Resistance）対策の啓発のために、『機動  
戦士ガンダム』とコラボレーションし、ポスター・リーフレットの作成と、SNSなどを通  
じた情報発信を行います。

抗生物質・抗菌薬などの抗微生物薬は現代の医療において重要な役割を果たしており、感  
染症の治癒、患者の予後の改善に大きく寄与してきました。その一方で、抗微生物薬の使  
用量が増大していくにつれて、その薬剤の効かなくなる微生物が発生するという「薬剤耐  
性（AMR）」の問題をもたらしてきました。この問題に対して有効な対策が講じられなけ

れば、2050年には全世界で年間1,000万人が薬剤耐性菌により死亡することが推定されています。AMR対策には、抗微生物薬を適切な場面に限定して、適切に使用することが求められています。しかし、日本においても、不適切な抗微生物薬の使用が一定数存在すると考えられ、その背景にはウイルスが原因の「かぜ」に抗微生物薬が効くと患者や家族が誤解しているケースや、症状が治まったと患者自らが判断し、医師に処方された抗生物質を最後まで飲みきらないケースなど、患者や家族の抗微生物薬に対する正しい理解が必要とされるケースもあります。こうしたことから、医療従事者だけでなく患者や患者の家族にも、AMRを自分に関係のあることとして捉えてもらい、薬剤耐性菌を出さないためにできることを、積極的に周知していく必要があると考えています。そこで今回、「機動戦士ガンダム」とコラボレーションし、同作品の本編中の名セリフ「アムロいきまあーす！」にかけて「AMR対策 いきまあーす！」をキャッチコピーとし、描き下ろしイラストを使用した啓発ツールを作成しました。「機動戦士ガンダム」は1979年の放映から今日に至るまで、アニメ・映画・プラモデルなど多岐にわたるコンテンツが展開されており、世代を越えて認知されています。「機動戦士ガンダム」のファンを始め、多くの国民がAMR対策である「抗微生物薬の適正使用」に関心を持つことを期待して企画しました。なお、厚生労働省では、AMRの周知広報の一環として、医療従事者向けに「抗微生物薬適正使用の手引き 第一版（ダイジェスト版）」も作成し、9月下旬から配布していきます。

■薬剤耐性（AMR）対策啓発コラボレーションポスター・リーフレットダウンロード先  
AMRCRC 啓発サイト <http://amr.ncgm.go.jp/medics/2-7.html>

薬剤耐性（AMR）対策について

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000120172.html>

※厚生労働省から国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンターに委託

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000179746.html>

WHO（世界保健機関）事務局長補に山本尚子氏が就任することが決定しました。

【照会先】大臣官房国際課

平成29年10月4日

この度、厚生労働省大臣官房付の山本尚子氏が、WHO事務局長補に就任することが決定しましたので、お知らせいたします。

山本事務局長補は、テドロスWHO新事務局長の下、WHOの最重要課題であるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）及びヘルスシステムの担当として、今月中にも就任する予定です。

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000179885.pdf>

ペストに係る注意喚起について平成29年10月4日

厚生労働省健康局結核感染症課長

世界保健機関（WHO）より、マダガスカル共和国の都心部を含む複数の地域において肺ペストが発生していると発表されましたので、お知らせします。

現在、WHOのチームが技術指導やサーベイランス補助などの現地活動を行っています。マダガスカル共和国から帰国し、疑わしい症状が出現した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な診断及び治療を受けることが重要です。

各自治体におかれましては、貴管内医療機関に対して、マダガスカル共和国からの入国者については肺ペストを念頭においた診療を行うよう情報提供をお願いします。また、貴管内で肺ペストを含めた一類感染症に感染した疑いのある患者が発生した場合における感染症指定医療機関への当該患者の搬送や当該患者の検体移送に関する手続等について、今一度、確認をお願いします。

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/info/20171005info.html>

2017年10月5日

千葉大学医学部附属病院長 山本 修一

#### 多剤耐性緑膿菌の検出について

当院に入院していた患者様のうち、8月下旬以降にお亡くなりになられた4名から多剤耐性緑膿菌が検出されました。ただちに感染拡大を防ぐ対応を行うとともに、すでに関係機関に報告しております。

患者様が重篤な状態で治療を行っていたため、現在、多剤耐性緑膿菌と死亡原因との関わりについて調査をしています。結果がわかり次第、改めてお知らせいたします。

このような事態となったことを重く受け止め、原因究明と再発防止に取り組んでいるところです。ご心配をおかけし、心よりお詫び申し上げます。

<https://anshin.pref.tokushima.jp/docs/2017101000035/>

危機管理連絡会議（重症熱性血小板減少症候群（SFTS）のイヌからヒトへの感染事例について（平成29年10月10日） 徳島県危機管理政策課

（1）重症熱性血小板減少症候群（SFTS）のイヌからヒトへの感染事例について

■保健福祉部と危機管理部から、以下の事項について説明があった。

・県内において、国内初の確認となる重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を発症したイヌからヒトへの感染事例

・今回の感染状況やマダニの予防、県による「SFTS」に係る相談窓口の開設

・発症していないペットからは、感染しないことや「ペットの適切な飼い方」

（2）危機管理部からの指示について

■危機管理部副部長から、次のとおり各部局に指示を行った。

・「SFTS」の相談窓口を開設し、県民や関係機関へ正確な情報提供

・「動物からうつる感染症」と「ペットの適切な接し方」の注意喚起

・「マダニの予防対策」の県民への周知